



Simplex Technology, Inc.

We listed shares on
Tokyo Stock Exchange first section.
September 1, 2005

株式会社シンプレクス・テクノロジー 東証1部：4340

プロフィール

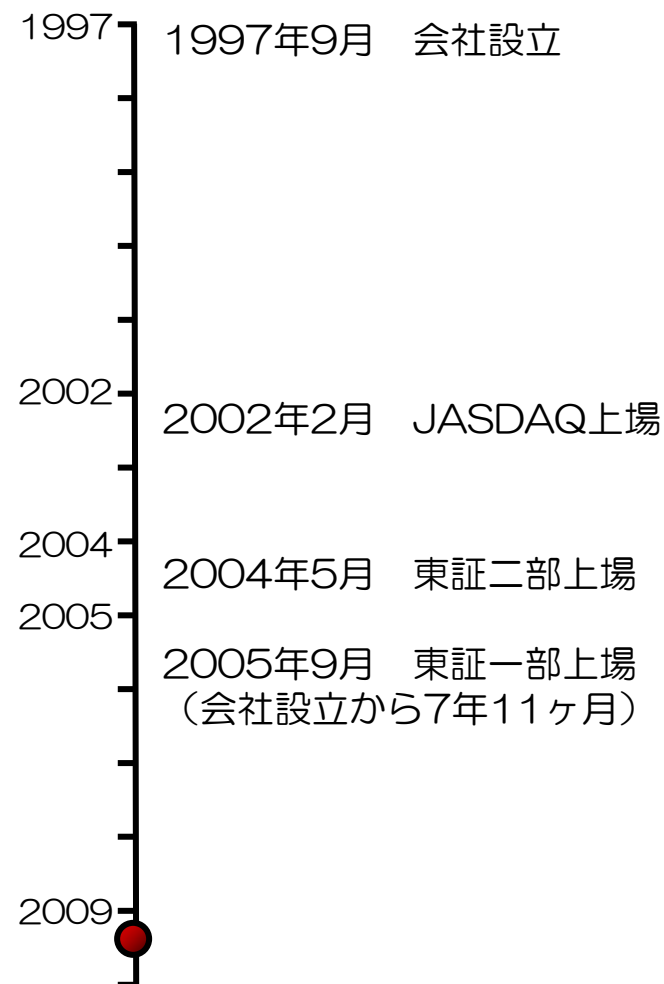


金子 英樹

(昭和38年生、46歳)

株式会社シンプレクス・テクノロジー
代表取締役社長

- アンダーセンコンサルティング
(現アクセンチュア)
金融機関向けシステムコンサルティング
- ソロモン・ブラザーズアジア証券
(現日興シティグループ証券)
トレーディング部門システム統括



1997年9月、日本の金融機関の再生を支える
“純国産・日本発”の金融ハイテクベンチャーを設立

シンプレクス・テクノロジーとは

金融業界・金融フロンティア領域に特化

金融工学・金融業務知識・IT技術をすべて兼ね備える

最新の
金融工学

金融
業務知識

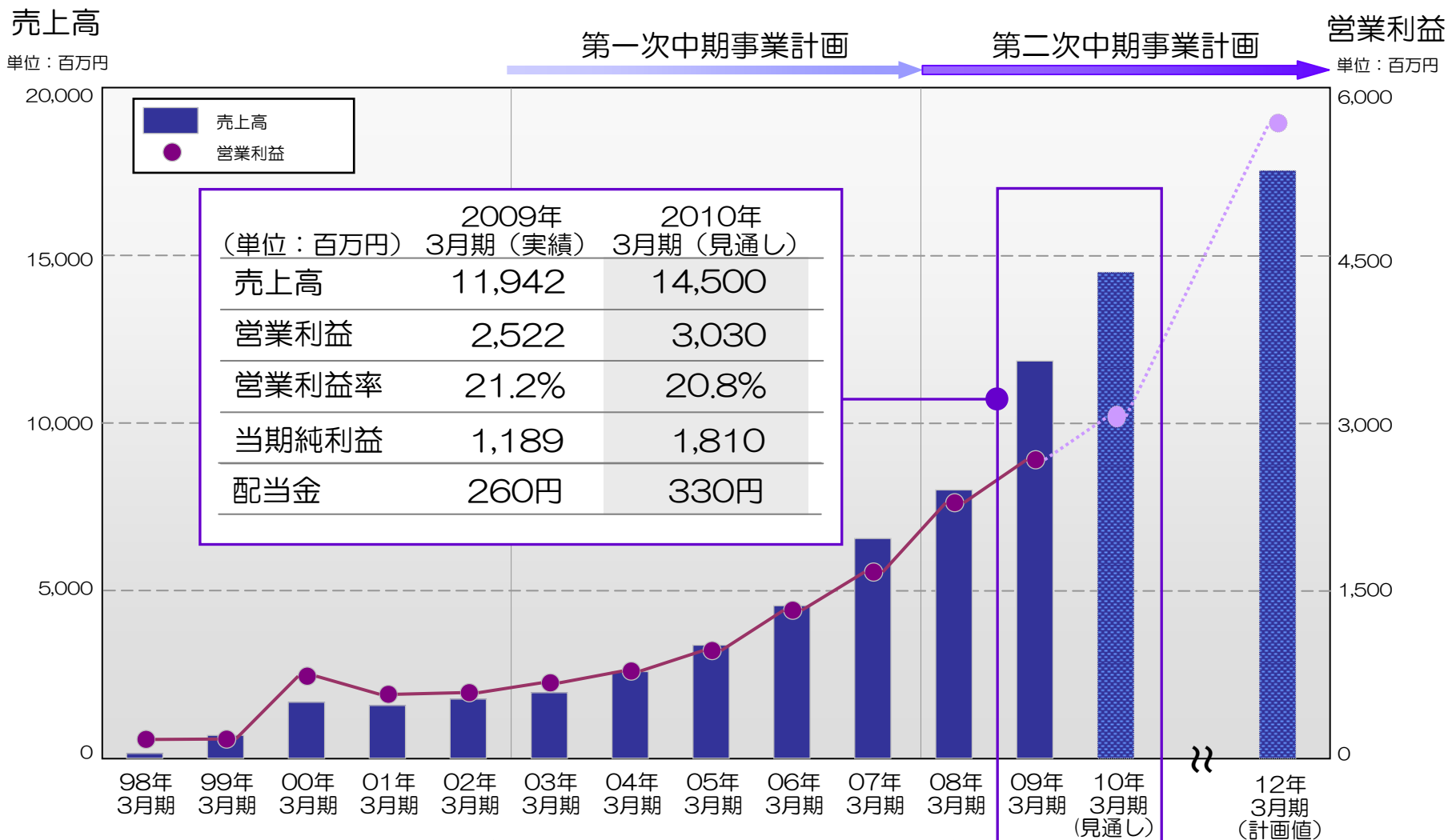
高度な
IT技術



最先端金融ハイテクベンチャー

金融フロンティア領域とは；
金融機関が戦略的なIT投資によって収益向上を図ろうとする領域

売上高・営業利益の推移



※ 2012年3月期見通しは、業績目標（売上高150～200億円、経常利益50～60億円）の中間値で表示しています

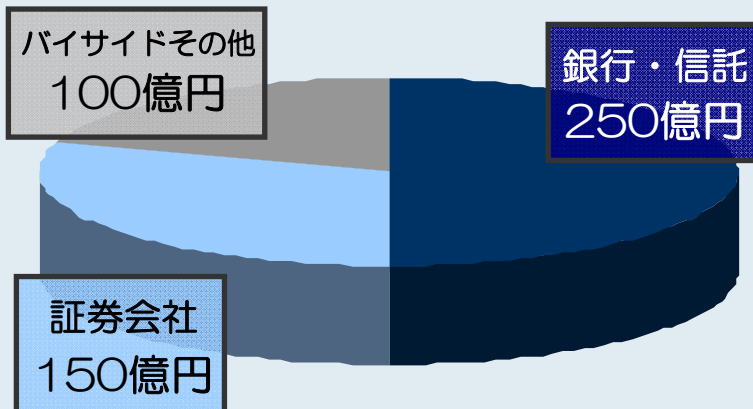
事業領域：金融フロンティア領域について

金融フロンティア領域とは；

- ▶ 金融機関が戦略的なIT投資によって収益向上を図ろうとする領域
- ▶ 「金融ノウハウ」と「最先端IT」を融合した高度なシステムが求められる領域
- ▶ 参入障壁の高い領域

金融フロンティア領域の市場規模

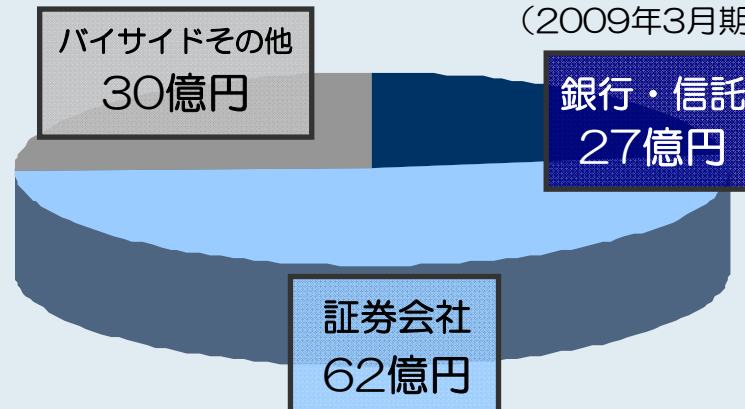
推定 500 億円



シプレクスの顧客別売上構成比

119 億円

(2009年3月期)



事業内容と特徴

金融フロンティア領域

[既存事業領域]

SI 事業

(システム・インテグレーション事業)

- 労働集約型を特徴とする受託開発型ビジネス
- フロー型収益モデル

収益力を高めるため
システム著作権を獲得

売上総利益率：40%

[新規事業領域]

UMS 事業

(ユニバーサル・マーケット・サービス事業)

- 先行投資を必要とするサービス提供型ビジネス
- スtock型収益モデル

収益力を高めるため
成功報酬型課金モデルを採用

売上総利益率：50~60%

SI事業とは：システム・インテグレーション (System Integration) 事業の略称です。

UMS事業とは：ユニバーサル・マーケット・サービス(Universal Market Service) 事業の略称です。

SI事業の特徴

SI事業
受託開発型ビジネス

ノウハウ集約型モデルを特徴とする受託開発型ビジネス

SI事業 特徴1：一貫開発体制

- コンサルティングからシステム開発、運用・保守までを一貫して自社で担当
- 高品質・高コストパフォーマンスな金融システムを顧客へ提供

SI事業 特徴2：システム著作権の獲得

- 競合他社の持ち得ない「金融ノウハウ」と「最先端IT」が競争優位の源泉
- システムの付加価値を顧客に理解してもらうことで著作権を獲得することに成功 ※

コストパフォーマンスの高い一貫開発体制

お客様のIT投資ニーズ

Simplex
TECHNOLOGY, INC.

コンサルティング

システム開発

システム運用・保守

システム高度化に向けた提案

お客様の収益力最大化をフルサポート
+
システム著作権の獲得

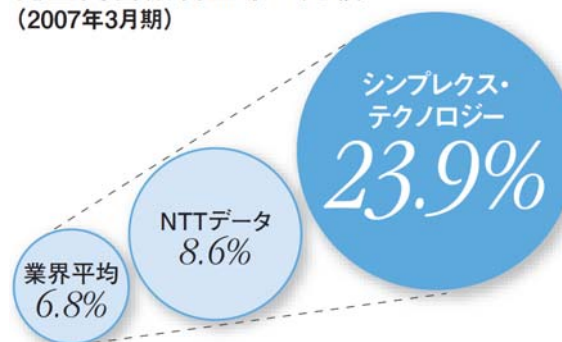
※著作権を当社が保持することで再利用が可能となるシステム部品群のことを「シンプレクス・ライブラリ」と呼んでいます

SI事業における当社ポジションと課題

SI事業における当社ポジション

圧倒的な高利益率を誇る
金融フロンティア領域No.1の
システム・インテグレータへ成長

売上高営業利益率の比較 ※
(2007年3月期)



※出典：「2007年版情報サービス産業基本統計調査」ならびに有価証券報告書等から当社作成

SI事業の課題

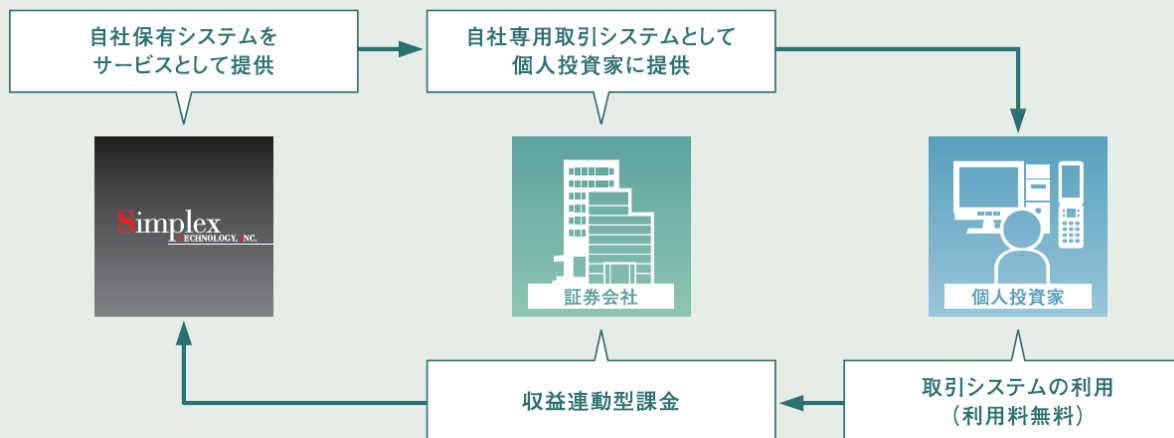
- フロー型（売り切り型）ビジネスのため、収益基盤が不安定
- 利益率向上の限界
- 優秀な人材の大量確保が難しい状況が、成長のボトルネックに

UMS事業の特徴

UMS 事業
サービス提供型ビジネス

SI事業の課題を補填するサービス提供型ビジネス

「SPRINT」からみたUMS事業ビジネスモデル



UMS 特徴1：ストック型収益モデル

- 自社保有システムを継続的にサービス提供するため収益基盤が安定化
- 自社保有システムを開発するために先行投資が必要不可欠

UMS 特徴2：成功報酬型課金モデル

- 顧客のビジネスの拡大と自社の収益が連動するWin-Winの関係を実現
- 高付加価値なサービスを提供することでSI事業よりも高い利益率を実現

※SPRINT（スプリント）とは、UMS事業の主力事業である個人投資家向けインターネット取引サービスを指します

UMS事業 主力サービスのご紹介：SPRINT

UMS 事業
サービス提供型ビジネス

個人投資家向けインターネット取引サービス：SPRINT

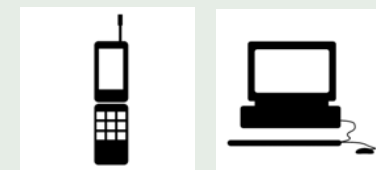
- 特徴1：多彩な注文・分析機能を搭載
- 特徴2：パソコンや携帯電話から多彩な商品を簡単・すばやく取引可能



メイン画面



テクニカルチャート



スピード注文画面

UMS事業 主力サービスのご紹介：SPRINT

UMS 事業
サービス提供型ビジネス

多彩な対応商品・チャネルと豊富な実績を誇るSPRINT

対応商品

- 株式（現物・信用）
- 先物・オプション
- 外国為替証拠金取引（FX）
- 債券

対応チャネル

- リッチクライアント版（パソコン）※
- リッチクライアント版（携帯電話）
- ウェブブラウザ版



導入実績（17社）

- 株式（現物・信用）／先物・オプション
オリックス証券、ジョインベスト証券
松井証券、先物系証券会社1社
- 外国為替証拠金取引（FX）
インヴァスト証券、光世証券、
コスモ証券、ジョインベスト証券、
スター為替、住信SBIネット銀行、
そしあす証券、ソニー銀行、ひまわり証券、
マネックスFX、マネーパートナーズ、
三菱商事フューチャーズ証券、
豊商事、ユニマット証券
- 債券
オリックス証券

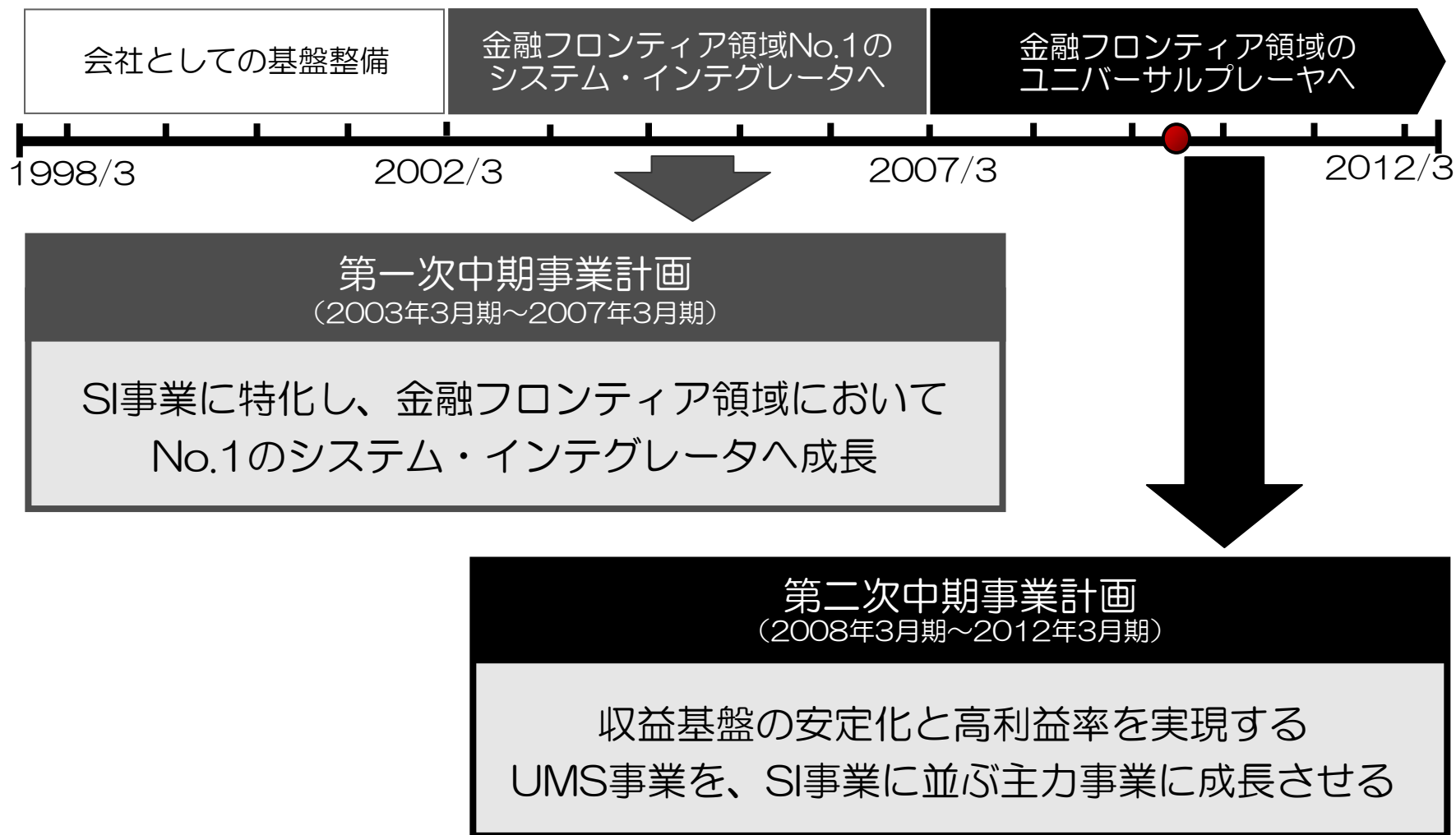
（2009年9月現在 敬称略 会社名50音順）

※リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です

第二次中期事業計画について

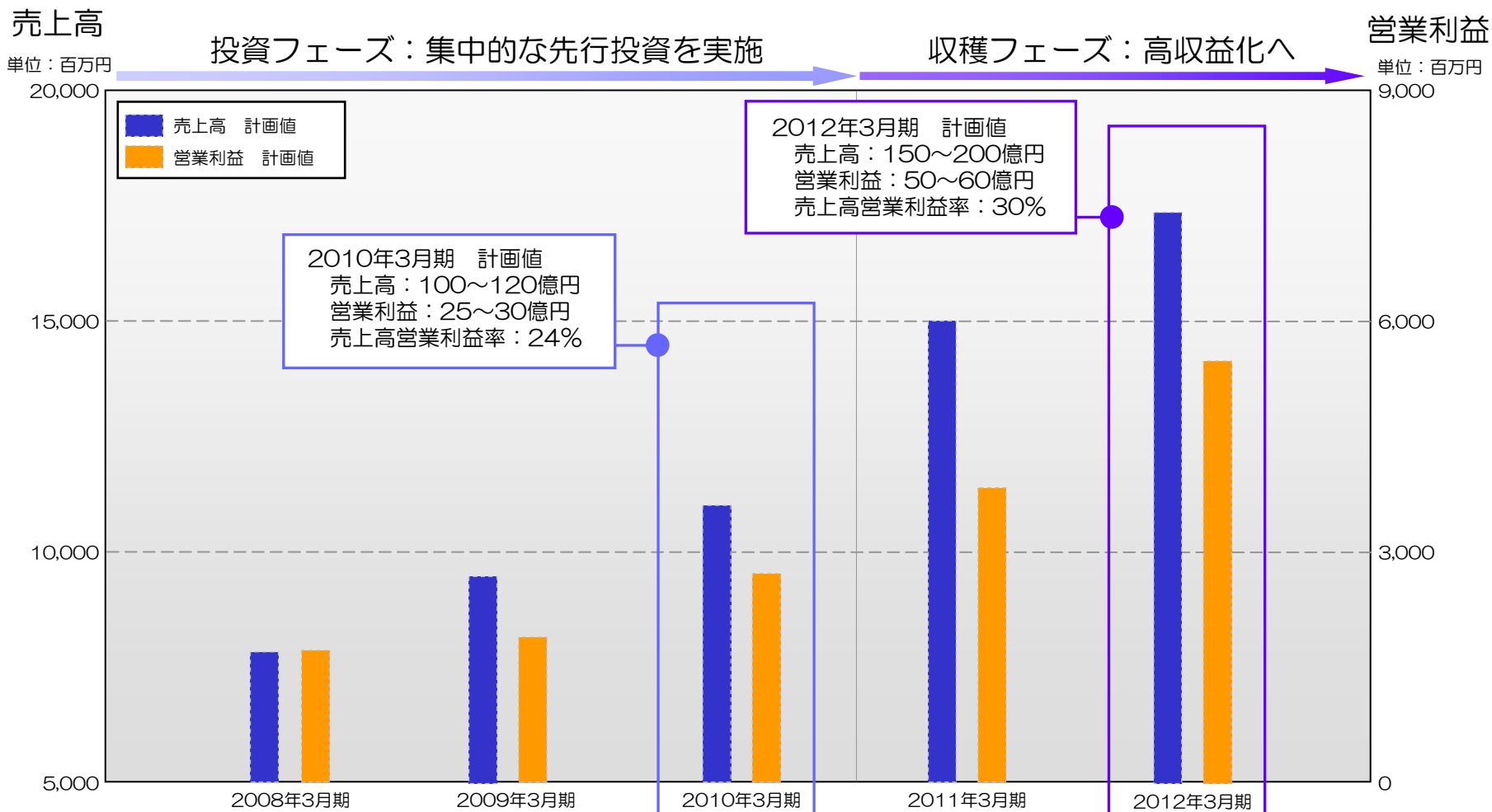
(2008年3月期～2012年3月期)

シンプレクス・テクノロジーの成長戦略



第二次中期事業計画の業績目標

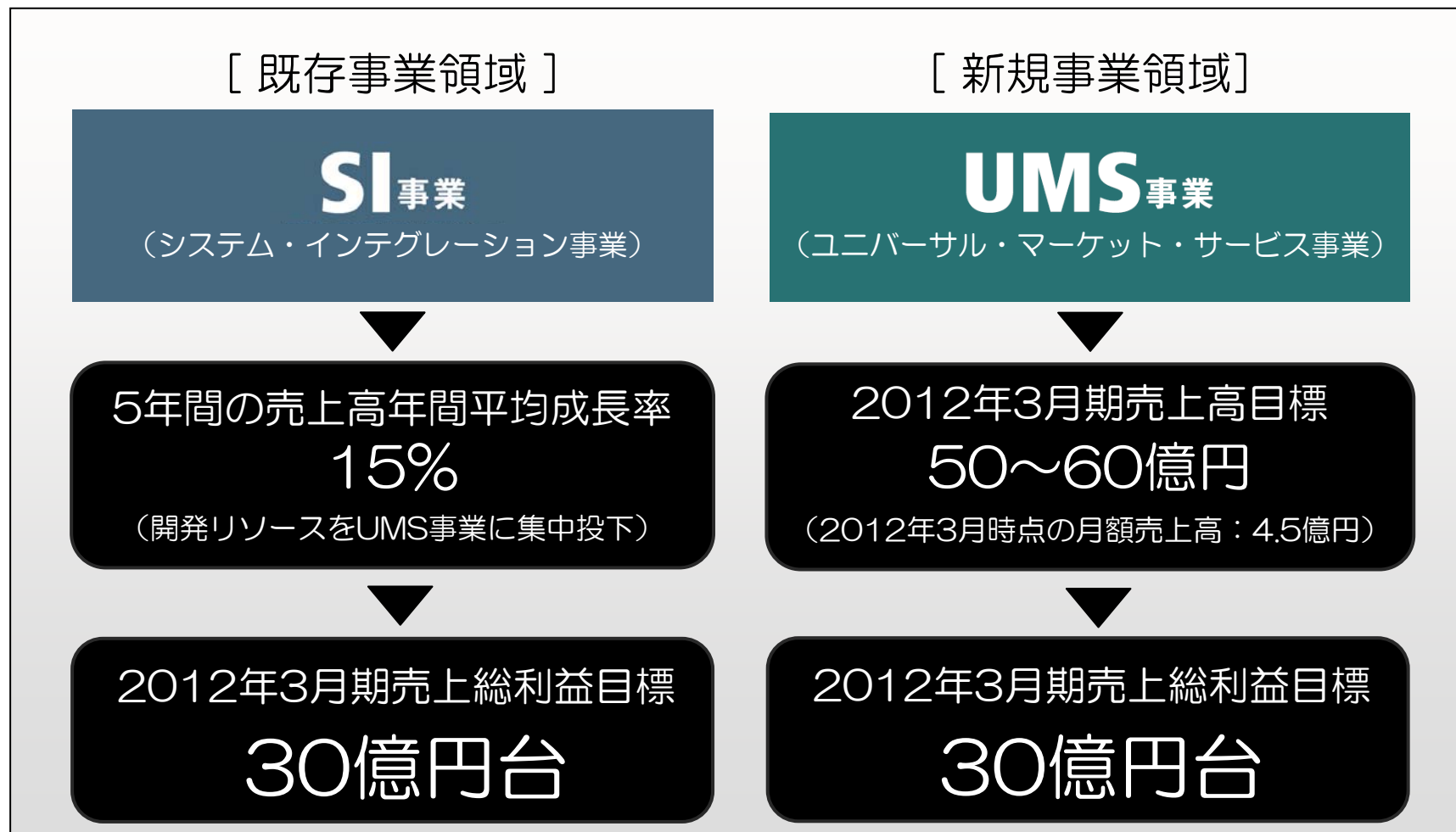
第二次中期事業計画 計画値 (2006年11月策定)



※UMS事業向け先行投資として、5年間で50億円程度の投資を実施予定です。投資コストは各会計年度で費用化することを前提としています。
 ※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。

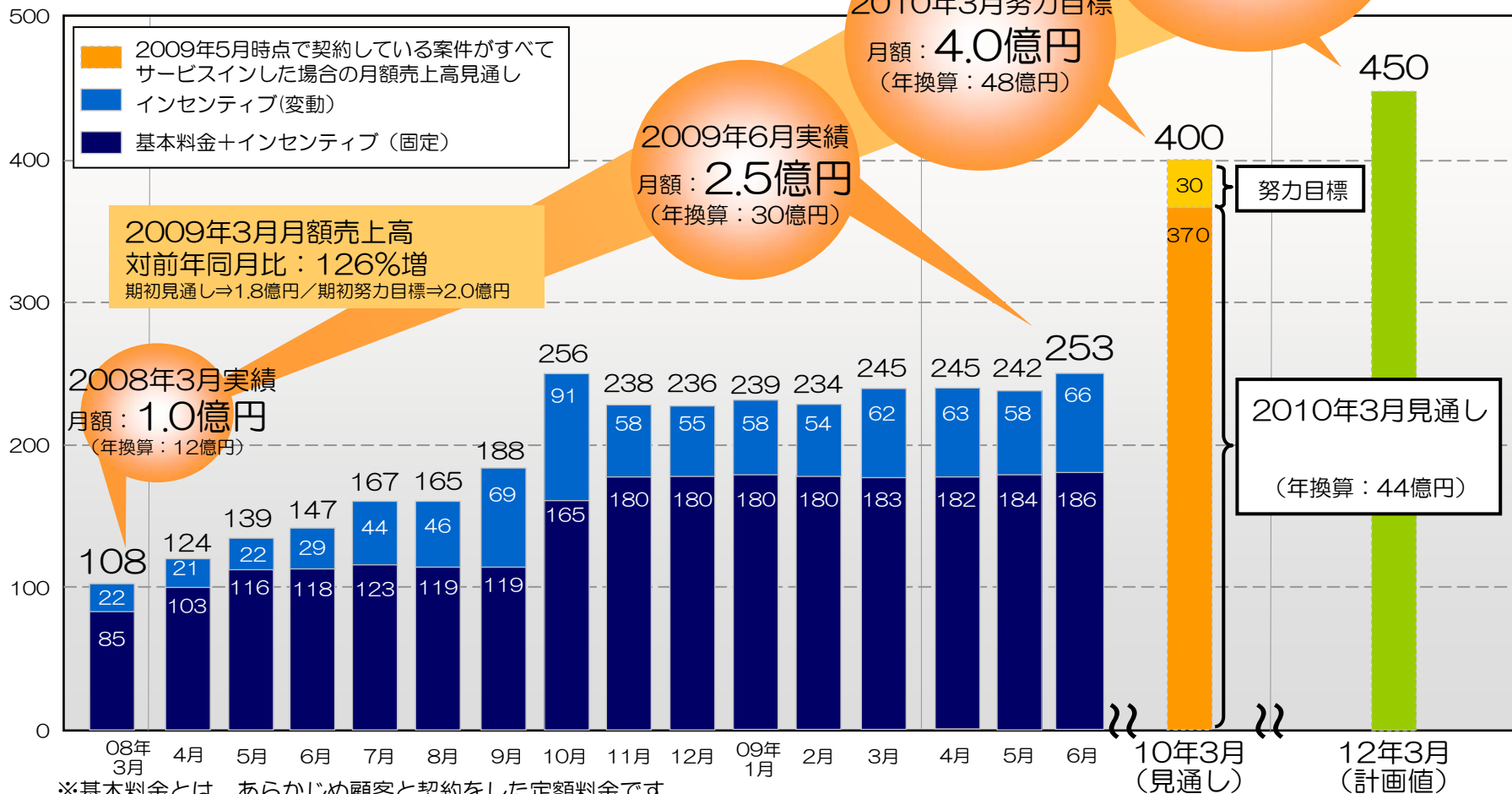
第二次中期事業計画の成長戦略

金融フロンティア領域



UMS(サービス) 月額売上高の推移

単位：百万円



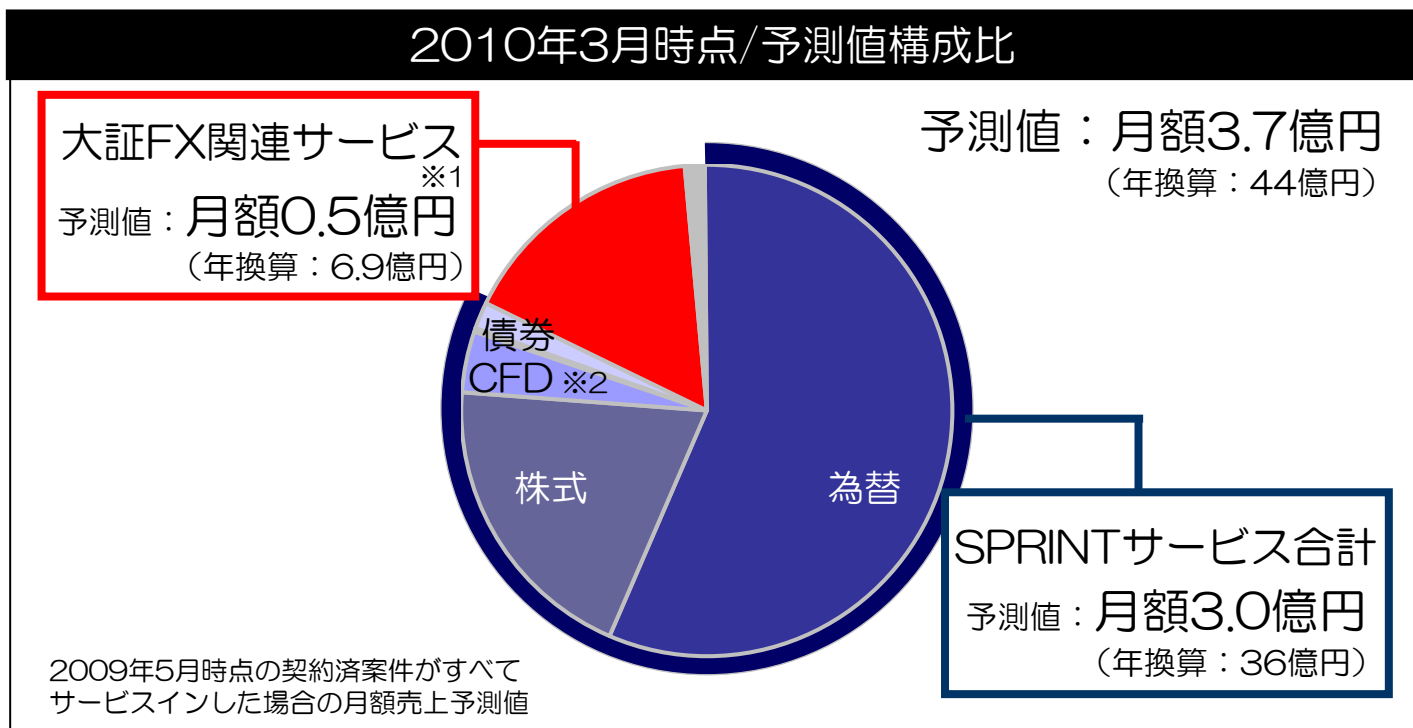
※基本料金とは、あらかじめ顧客と契約をした定額料金です。

※インセンティブとは、「手数料収入課金」などサービスを利用することによって生じる顧客の収益に連動する料金です。

※年換算値は、月額売上高の値を12倍して算出したものです。

※2010年3月見通しは、2009年5月時点の契約済案件から計上しています。

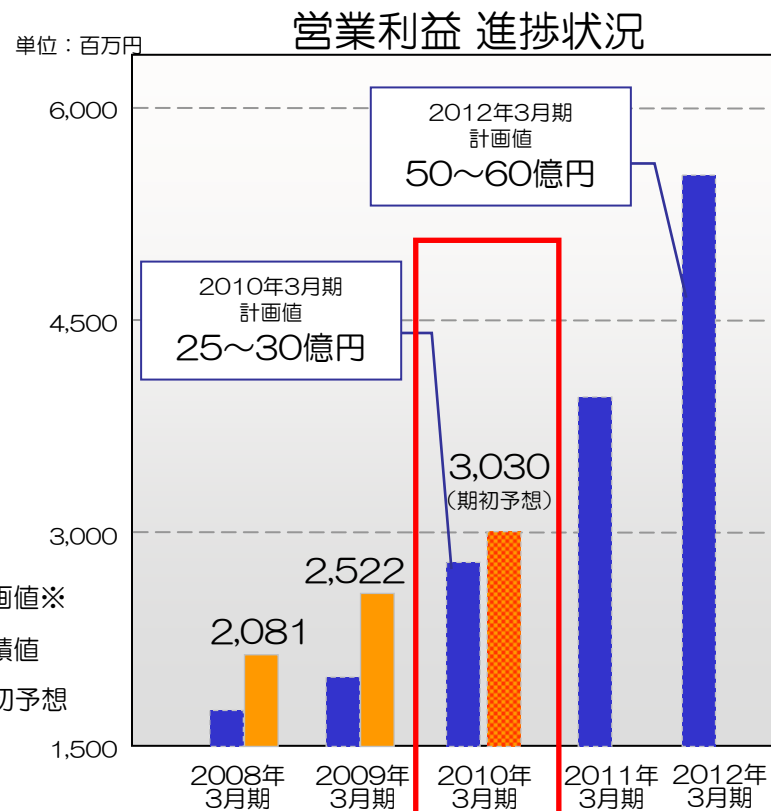
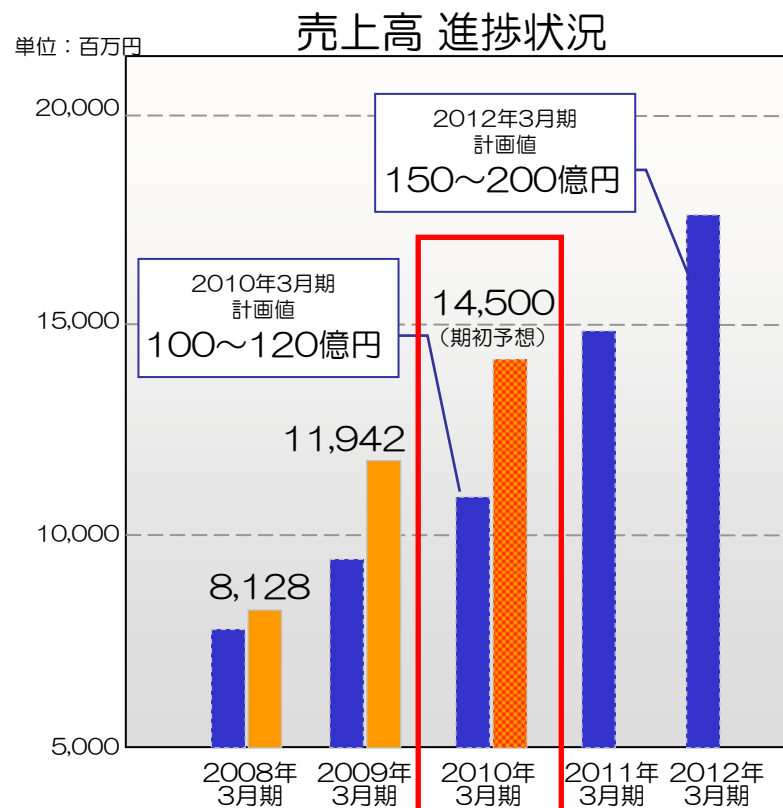
2010年3月時点 UMS(サービス) 売上予測構成比



2009年7月サービスイン予定の大証FX関連の売上が
2010年3月時点のUMS (サービス) 月額売上高に大きく寄与する見通し

- ※1 大証FXとは、大阪証券取引所が2009年7月に創設を予定している取引所FXを指します。
2010年3月時点の大証FXサービスの売上予想値は、取引所向けサービスとFX事業者向けサービスから計上予定の収益を合計した予測値となります。
当初半年程度は取引量を保守的に見ており、今期の売上総利益率は低めになると予想しています (詳しくは参考資料「2010年3月時点 大証FX関連サービス売上予測について」をご参照ください)
- ※2 CFDとはContract for differenceの略称で、様々な金融商品の差額売買を証拠金によって行う差金決済取引を指します。

第二次中期事業計画 進捗状況



売上高は1年前倒しのペースで進捗中



利益は計画上限値をわずかに超える予定

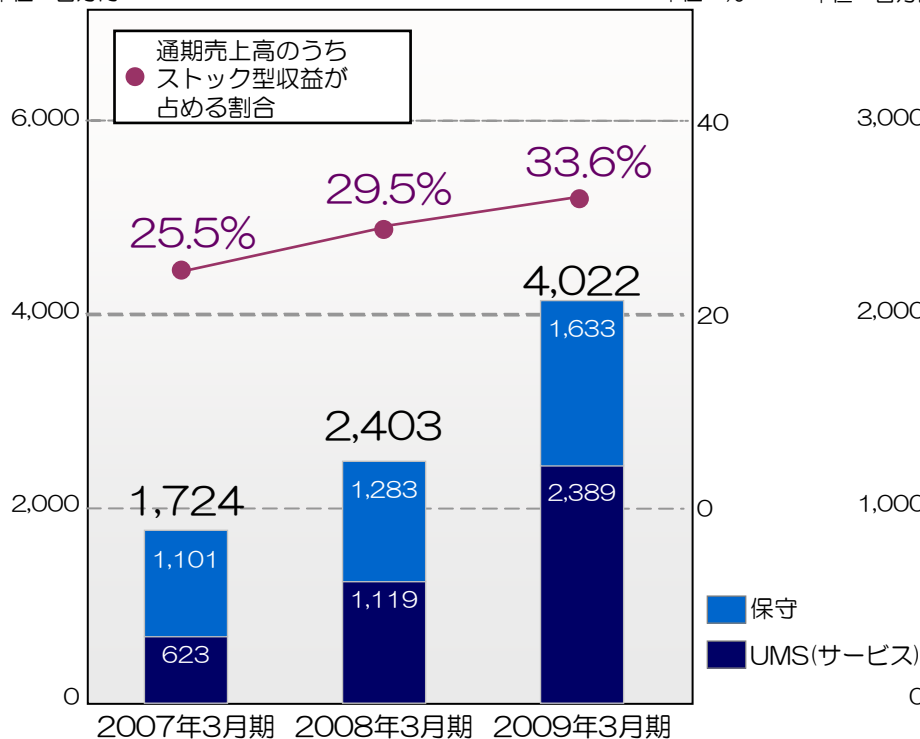
※計画値は、2006年11月に策定した第二次中期事業計画の計画値です。

※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。

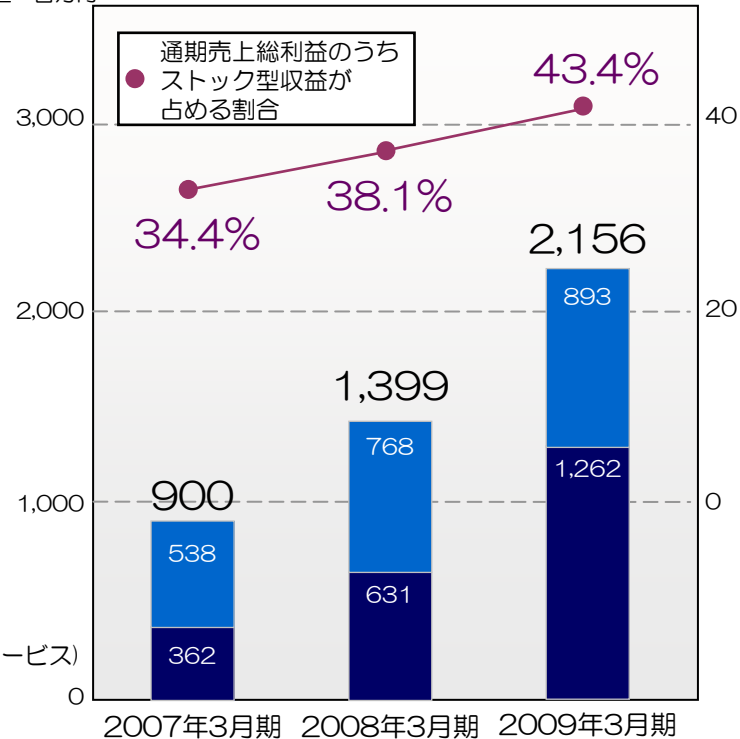
※2010年3月期、2009年3月期の売上高・営業利益の計画値は、上限値を目標、下限値を株主の皆様に対する公約・責務（コミットメント）としています。

ストック型収益の売上高・売上総利益の推移

単位：百万円 ストック型収益 売上高の推移 単位：%



単位：百万円 ストック型収益 売上総利益の推移 単位：%



▲ ストック型ビジネスである保守とUMS（サービス）が順調に伸びる

▲ 通期売上高・売上総利益のうち、ストック型収益が占める割合が増加

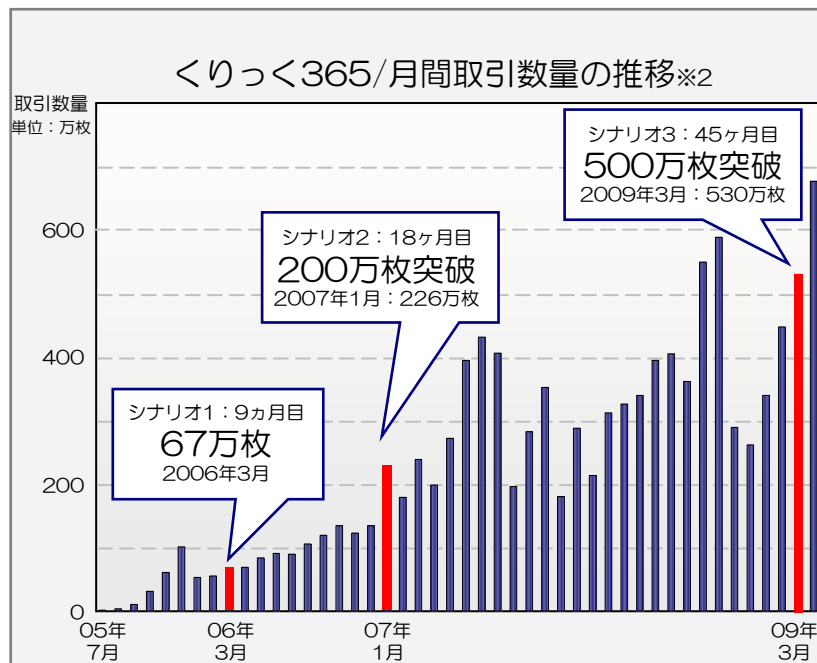
※ストック型収益とは、保守とUMS（サービス）を合計した安定的に計上できる売上高/利益を指します。

參考資料

2010年3月時点 大証FX関連サービス売上予測について

予測にあたっての前提

- 取引所向けサービス・FX事業者向けサービスの双方から売上を計上予定
- FX事業者向けサービスからの売上予想については、当社サービスを利用した取引が大証FX取引全体の65%を占めると仮定 ※1
- 売上計上の際、係数となる取引数量には取引所FX取引「くりっく365」の取引実績を参考に当社算出



2010年3月時点の大証FX関連売上予測シナリオ

■シナリオ1：67万枚	5,800万円 (年換算：6.9億円)
■シナリオ2：200万枚	8,500万円 (年換算：10.2億円)
■シナリオ3：500万枚	14,900万円 (年換算：17.8億円)

2010年3月時点の売上予想にはシナリオ1を採用
当初半年程度は取引量を保守的に見積る

※1 占有率は、2009年5月時点で当社がサービス提供を予定している合計8社のFX事業者の事業規模から算出しています。

※2 東京金融取引所の「くりっく365 全通貨取引数量/建玉推移」<http://www.click365.jp/statistics/data/monthlyfx.xls>から当社が作成したものです。

ホームページのご紹介

English
Simplex Technology, Inc is a leading provider of mission-critical system solutions for financial trading application, platform, and analytics.

検索

ソリューション 投資家向け情報 採用情報 会社情報 ニュース

製品に関するお問い合わせ
IRに関するお問い合わせ
その他のお問い合わせ
MP 本社へのアクセス

イベント

2008年9月3日(水)
個人投資家向け会社説明会(札幌)
札幌すみれホテル
詳細はこちら

過去のイベント一覧

動画配信

第二次中期経営計画について

Simplex Technology, Inc.
We listed shares on
Tokyo Stock Exchange first section.
September 1, 2005

当社のホームページでは株主・投資家のみなさまの利便性や情報提供の即時性を考慮し、最新のリリースや財務情報、決算公告、その他IR関連の資料掲載、IRブログを掲載しております。是非ご覧下さい。

<http://www.simplex-tech.co.jp/>

本資料に掲載されている当社の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しとなります。現在入手可能な情報から得られた当社の経営判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績は、当社の見通しと異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではなく、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。